未来に豊かな環境を引き継ぐために（仮称）公害に関する資料館基本計画（案）～ともに考え・ともに成長・活動する資料館（以下、公害資料館）への意見（第１弾）

資料館準備室長　樋口知行　殿

日夜、公害資料館スタートに向けての皆さんのご尽力に心より敬意を表します。

現時点での、私どものいくつかの意見を冊子の箇所を明示して、申し上げたいと思います。

Ｐ２，基本的な考え方　２―③新たな課題を含めた環境学習Ｌ１（1行目のこと）

環境保全、改善を行うには、**「日本国憲法にも明示された主権者としての教育が必要でその上で」**市民一人ひとりの生活様式の改善等が重要です。

（「　」太字の挿入、という形で以下述べていきます。随所に理由も入れて参ります。）

［　理由　］ 環境問題をすぐ市民や子どもたちの心がけや生活様式の問題にして、道徳主義、態度主義にしてきたのは今までの悪しき方向です。何よりも公害で苦しめられた人びとがいのちと生活を賭け不条理と闘って、自らの権利を勝ち取ったその「主権者意識」を学び、身に付けさせることが先で、最も重要と考えます。

この箇所の加筆は基本的な考え方で、今更加筆できないなら、後半の各項でこうした認識に立って再度具体的なチェック、加筆・修正をお願いしたいと思っています。

Ｐ３、④環境に配慮したまちづくりＬ６

環境施策を考えるにあたっては、**「現在の喫緊の課題をやり遂げ」**こういった強みを活かすとともに、まちづくりと連動した幅広い取組が必要です。

［　理由　］ まちづくりと連動して環境問題を考えるのは賛成です。しかし、今なおコンビナートと狭い道一つで隣接している街や災害対策の緑地帯もむしろ狭められてきました。そうした喫緊の対策がされず理想やコンパクトシティを論じても真実味が生まれません。そして、かねてから申し上げているように「コンビナートの防災」就中、東海・東南海地震に備えてのまちづくりの中でこそ論ずべきではありませんか。

Ｐ３，⑥生物多様性を含めた環境保全Ｌ５

これからは、生き物や生態系などが作り出す自然のしくみを十分に理解し、**「汚れた海を再生させ、」**自然循環のバランスを保ち続けることが必要です。

［　理由　］ 四日市は大気汚染だけでなく、河川・海の汚染も甚大でした。海の汚れをそう簡単に改善することは困難でしょう。しかし、常に意識して、できうる限りのことをしていきたいものです。吉崎の砂浜の再生等市民・住民のアメニティ空間の広がりをつくる具体的な施策が求められていると思います。

Ｐ３、⑦情報発信によるイメージ転換Ｌ２

本市の正確な環境情報を知ってもらうとともに、**「患者･被害者の完全救済を通して」**「公害のまち」というイメージを克服し、「環境のまち」という新しいイメージの構築が求められます。

［　理由　］ 今までの行政をはじめとする公害イメージの払拭は、患者・遺族・家族の存在を忘れ去り、否、意図的に消し去って、青い空がもどったキャンペーン、近いところではホタルとコンビナートの競演、夜景を売り物にしたナイトクルーズ、教科書会社への学習指導資料の変更要請などと本質（被害者の完全救済）を置き去りにしたイメチェン攻略でした。同和教育を掲げ、人権尊重を標榜する四日市市なら、弱い立場の被害者の気持ちを汲んで、その克服を通して、人権と環境を大事にした町として再生すべきでしょう。

この基本計画案にも「市民」とは多く書かれているのですが、「患者・被害者・生き証人」という言葉と認識がはっきりと出て来ないのは残念なことです。

Ｐ３、⑧世界を視野に入れた社会貢献Ｌ２

本市がもつ環境改善に関する経験、技術、**「哲学」**を国内外に移転し、世界的な視野で環境改善に取り組む必要があります。

［　理由　］ あえて「哲学」と挿入しようとしたのは、たとえば最近の中国の大気汚染を見ても、中国に排煙脱硫装置の技術を移転することも大事ですが、その前に、市民こそが不利益に黙っていないで要求して自分たちで現状を変えよう、という政治意識というか「市民形成」のノウハウをこそ移転する眼目だと考えるからです。

Ｐ７、７施設の名称

是非、**プレートを大きくつけて**、博物館の一部ではなく「四日市公害と環境未来館」であることを明示してください。

Ｐ１０、展示機能の展開と活動（２）ア

二度と同じような悲劇を生まないように、公害被害の状況と**「実相」**を伝えます。

ウ、**「患者」**・市民・企業・行政が一体となって環境改善に取り組んだ…

（以下、同じように市民と並立か別記で「患者」と入れた方がいいところ多し。）

Ｐ１１、２資料展示活動（１）常設展示　⑤現代「現在の四日市」に**「今なお420 数名の認定患者がおり、同じ症状の患者もおられます。」**と明記されること。これを書かないことは欺瞞につながるとさえ思います。

Ｐ１２、３展示テーマのねらいと概要　表中「環境先進都市　未来」は**行政の意見ではなく、市民の幅広い意見や子どもたちの夢など多面的に載せましょう。**

Ｐ１４、（４）プラネタリウムで「宇宙からみた四日市」

　この構想の積極的意味を殆ど感じません。（むしろ、ゲスの勘ぐりですが、資料館予算を流用？してプラネタリウムを改装するのではとの見方も存在します。後で情報公開で恥をかかないようにしたいものです。）

Ｐ１８、学習拠点としての活動（１）サブフィールドと連携した環境学習…
アとして、まず第１に「市民活動・環境保全運動等と連携した学習プログラムの作成」を是非とも入れてください。

Ｐ１９、４　環境教育への展開…
（１）市内・県内小学校等への公害・環境教育の充実の文末に**「そのための予算化に努めます」**とお入れください。（熊本県のように。）
（３）小**中高等**学校での公害・環境教育の充実…と中高も入れておいた方が。とりわけ認識力が高まる中高での公害学習は肝要です。

Ｐ２３、支援機能　（４）情報受発信のイメージ図の右端「各種団体**（患者団体）**と明記を。
Ｐ２６、３連携・調整（１）図イ　せめてここでも**「患者」**市民・企業との連携・調整と「患者」を意識的に入れるべきと考えます。
　同図エ　国内**外**類似施設等との連携・調整と国外友好連携施設も念頭におく。

Ｐ３３、施設利用料　無料は歓迎です。津にはアスト、鈴鹿はコミセンとそれぞれ「無料」公的施設があります。四日市は「なや」も「地区市民センター」も有料で遅れていました。需要は一気に増えるでしょうからその対策も今から。
Ｐ３８、学習プログラムのイメージ　２サブフィールドの学習プログラム例
（１）企業・**市民団体**と連携した学習プログラム…として右二つの絵は企業に偏りすぎですので、４つ目は「**市民団体等　市県内等の環境問題に取り組む方々から話を聞く**」と直しましょう。

※　以上、紙数の加減もあり今回はここまでとしますが、準備室からのご意見も聞かせていただいて次回また私どもの細案の再提案もお聞きいただこうと思います。　[文責　磯津環境学校　萩森]